

一般財団法人京都ユースホステル協会

2020年度事業計画修正

“ Say Hi to the world ” ～旅の持つ力～

若者が世界（旅）の扉を開けて学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内
TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289
URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

事業計画・事業予算の修正に当たって

3月の事業計画作成時に予測していました新型コロナウイルス感染の影響について、当初に見込んでおりました4月以降の予測を大きく上回る感染拡大と長期化が見込まれます。

そうしたことから、事業収入等の大幅減少が見込まれることから支出の見直しや追加の経費削減、国等の助成金申請、京都市への運営補填や補助金等の交渉を行っております。

しかし、教育旅行等の取り消しなど影響の長期化から単年度収支で大きな赤字が想定されます。

そこで、2020年度の事業計画並びに事業予算の見直しを行うと共に、感染防止対策の徹底、雇用や事業維持、利用促進等のための国や地方自治体の制度やキャンペーン事業等を活用しながら、長期化する新型コロナウイルス感染による危機を克服し、今後も事業や施設を継続して運営していくことができるよう取り組んでまいります。

今年度は厳しい財政状況となりますが、これまでに積み立てた資産や資金等を活用しながらこの危機を乗り越え、新型コロナウイルスの感染収束後の利用回復や競争力の強化ならびに事業の発展につながる運営の改善、必要な投資にも継続して取り組んでまいります。

専務理事 高田光治

事業活動における運営方針と方向性

1. 運営方針

未だ新型コロナウイルスの収束の見通しが立たない厳しい状況が続いていますが、今を乗り越え、収束後に回復や力強い歩みを進めるために、次の4つの方針に沿って運営を行います。

- ① 安心して宿泊、参加いただけるための感染防止対策の徹底に努めます。
- ② 事業活動を継続していくための赤字最小化のために、事業や運営、システムの改善や効率化を図ります。
- ③ 今までにない発想を持って競争力のある新しい魅力や強みを作り出します。
- ④ 新型コロナウイルス収束後を見据えた人材育成や投資的な取り組みを継続して行います。

2. 事業活動の方向性

[I . ユースホステル活動]

「旅の中での出会いと交流」の在り方を、新しい生活様式にフィットした形に変え実施していきます。大人数で行っていたエブリデイワンなどのプログラムは、家族や小グループといった小さな単位で安全に実施できるよう提供方法を変更します。すでに新規プログラムとして実施している「焚火庵」は、少人数で野外にて静かに楽しむことが出来るイベントです。以上のような新しい形でユースホステルでの滞在の価値を高め、利用者・宿泊者の増加につなげます。

また、野外活動を中心に行っているネイチャーキッズプログラムなどの青少年共催事業や、まち歩き事業のまいまい京都は、安全対策を講じながらも積極的に実施が出来るようサポートを行います。特に、まいまい京都ではオンラインでのツアー実施を始めており、新しい国際交流の方法としてもオンラインを使った新たなユースホステル運動の展開を試みます。

[年間数値目標の修正]

	当初目標	変更後目標
1. 事業参加者数	25,000 名	19,000 名
ユースホステル交流創出事業	4,000 名	1,000 名
ユースホステル運動普及活動	1,500 名	500 名
ユースホステル体験活動	19,500 名	17,500 名
2. 青少年参加者数	6,500 名	4,000 名
3. 宿泊を伴う事業	8 事業	4 事業

[主な取り組み]

- 新しい生活様式に合わせた交流創出事業の提供
 - ・ 家族や小グループで安全に出来るイベントプログラムを提供
 - ・ 焚火を囲み野外で安全に楽しめる焚火庵プログラムを提供
 - ・ オンラインによる海外学校と地元学校との国際交流プログラムの実施
- ユースホステル運動の普及活動
 - ・ 地域の方を対象に提供するイベント講座の実施
- ユースホステル体験活動の促進
 - ・ まいまい京都オンライン配信のサポート

[Ⅱ. ユースホステル関連活動]

食堂部門は、特に宇多野ユースホステルの付帯設備の側面から、宿泊者が不在中では収益向上にも繋がらず厳しい状況が続いています。その為、地域住民向けのランチやお弁当販売、オリジナルグッズの通信販売等を実施しました。収益改善に貢献するには至りませんでした。課題の洗い出しや今後の新しい展開を検討する上での試金石となりました。

今後は、アレルギー対応や満足度の高い食事内容もさることながら、コロナ禍にあわせた座席配置や提供方法ほか、安全な食事提供に向けて更なる工夫を重ねます。また、宿泊者が戻るまでは極力赤字幅を圧縮できるよう効率的な体制と運営に努め、その中でも特長あるメニューの開発に力を入れていきます。

[年間数値目標の修正]

	当初目標	変更後目標		当初目標	変更後目標
1. 夕食提供数	19,040 食	2,756 食	2. 朝食提供数	27,540 食	4,135 食
4 月	950	22	4 月	1,568	45
5 月	2,193	0	5 月	2,511	0
6 月	1,698	35	6 月	2,519	53
7 月	1,250	150	7 月	2,197	261
8 月	1,407	237	8 月	2,998	443
9 月	1,575	261	9 月	2,118	351
10 月	2,375	281	10 月	3,040	359
11 月	2,222	361	11 月	2,965	482
12 月	2,014	620	12 月	2,400	739
1 月	609	106	1 月	1,692	348
2 月	999	147	2 月	1,396	249
3 月	1,748	536	3 月	2,136	805

[主な取り組み]

- コロナ禍での安全な食事提供の確立
 - ・ 家族以外は対面にならないような座席配置
 - ・ 大規模団体へのスムーズな入れ替え制による食事提供
- ランチ提供の再開やイベント企画での食事提供
 - ・ 特長あるメニューに絞り効率的な運営方法の確立
 - ・ 焚火庵等のイベントでの食事提供
- 赤字幅を圧縮するための運営
 - ・ 宿泊が極端に少ない日の食事提供停止の事前設定
 - ・ 保存がきく食材によるメニュー開発
 - ・ スタッフへの休業指示

[Ⅲ. 宇多野ユースホステル]

新型コロナウイルスの影響により 2 ヶ月に及ぶ長期休館を経験し、ユースホステル本来の活動理念である直接的体験からの学び、その為の出会いや交流の機会・場の提供が難しい状況となりました。長期的な様相を呈している中、まずは安心安全な施設として新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底します。

また、厳しい運営状況を踏まえ、運営の効率化と経費削減に注力し、赤字幅の最小化に取り組みます。あわせて、人材育成や運営のシステム化など投資や運営方法の見直しを進め、長期的な視野で新型コロナウイルス収束後を見据えた新しいユースホステルの役割や価値の醸成に努めます。

[年間数値目標の修正]

	当初目標	変更後目標
1. 宿泊者数	34,000 名	5,230 名
4 月	1,830 名	90 名
5 月	2,810 名	0 名
6 月	2,790 名	80 名
7 月	2,960 名	330 名
8 月	3,850 名	580 名
9 月	2,410 名	400 名
10 月	3,210 名	380 名
11 月	3,540 名	575 名
12 月	2,760 名	850 名
1 月	2,510 名	440 名
2 月	2,180 名	320 名
3 月	3,150 名	1,100 名
2. 学校団体利用数	105 校	15 校
3. スポーツ団体利用数	75 団体	10 団体

[主な取り組み]

- 新たな魅力や利用方法を生み出す宿泊企画の販売
 - ・ B B Q やテニス等とパッケージングした宿泊企画の販売
 - ・ テレワークやワーケーションを意識したドミトリ一部屋の個室販売
- 各種宿泊キャンペーンによる宿泊誘致
 - ・ 京都市民・家族・若者・子どもなど、時期に応じ対象を定めた宿泊費半額割引キャンペーンの実施
- 周辺の魅力を活かしたプログラム提供
 - ・ 宇多野地域の魅力を紹介したお薦め周辺コースの紹介
 - ・ ガイドと共に周辺地域を散策するオリジナルツアーの実施
- 運営体制の見直し
 - ・ 職員補充の見送りと休業指示による人件費抑制
 - ・ 運営時間見直しによる経費削減と効率的な人員配置

[IV. 天橋立ユースホテル]

2020年度の事業計画作成時に比べ、新型コロナウイルスの感染が拡大し、長期にわたる影響が懸念されことから、厳しい運営状況を乗り切る固定経費の削減や運営の効率化、感染収束後の回復に備えた競争力を生み出す取り組みや投資、運営や施設の改善等に取り組みます。

[年間数値目標の修正]

	当初目標	変更後目標		当初目標	変更後目標
4月	220名	40名	10月	200名	80名
5月	280名	40名	11月	290名	180名
6月	170名	40名	12月	200名	110名
7月	350名	180名	1月	180名	90名
8月	700名	350名	2月	150名	80名
9月	260名	80名	3月	300名	180名
小計	1,980名	730名	小計	1,320名	720名
			1. 宿泊者数	3,300名	1,450名

[主な取り組み]

- 感染予防の対策強化や支援制度を活用した新型コロナウイルス危機の克服と運営改善の継続
 - ・ 消毒や清掃、マスク着用や濃密の回避等の感染要望対策の強化や滞在者への協力依頼
 - ・ 国や京都府、地域のDMO等の事業継続支援の宿泊割引キャンペーンや地域の宿泊クーポン等の活用による利用回復の取組強化
- 地方での持続可能な運営を図る現場の運営裁量を広げた請負等による早期の運営委託移行
 - ・ 料金や休館日を含めた持続可能な運営等を可能にする 8月からの運営委託契約への移行
※年間170日以上開館（8月以降は120日以上開館）
- 新型コロナの感染が続く中で生まれる時間を活かした施設や設備等の改善
 - ・ 地元高校の建築学科等との連携による施設の魅力づくりや改善等の検討
 - ・ 改善が指摘されていた駐車場の段差解消、ガス衣類乾燥機の設置、テラスの活用や利用環境の整備、フロントや廊下壁面等の改修
- 地元資源や人材活用、地域での活動との連携推進と魅力的な体験や滞在企画、サービスの提供等による競争力の強化や底堅い利用層獲得への取組強化
 - ・ 地元人材の活用チャンネルづくりや地元の野外活動、エコ活動者や団体、組織やサイクリストとの連携によるプログラム開発と提供準備
 - ・ 部屋単位の利用が容易な家族や小グループ、旅の目的や滞在意欲の強い社寺巡りや参拝、濃密を避けたサイクリストや個人旅行者利用誘致
- 感染収束後を見据えた競争力を高める運営や新たな試みにチャレンジできる人材の育成、運営支援のネットワーク、仕組みの開発
 - ・ 運営や施設、サービス改善などの学びの機会提供や地域を含めたサポート体制づくり

[V. 組織運営]

現在の新型コロナウイルスは、組織運営の在り方を一変させました。年度当初は「安定して事業を継続できる組織基盤の再構築」と「スタッフのより積極的な動きにつながる環境整備」をテーマに掲げた取り組みを計画していましたが、収束の見通しが立たない状況下で想定を遥かに超える宿泊者の減少が続き、また、それに伴い食事提供数も激減しており、“組織運営を継続させること”が何よりも重要な課題となっています。

2020年度は極めて大きな赤字額になる見通しとなっているため、少しでも赤字幅が小さく収束後に少しでも余力を残せるように、特に基幹事業の宇多野ユースホステル運営では今までのやり方や考え方から脱却し、ゼロベースで最善の運営方法を考える必要があります。

組織運営では、各部門で思い切った取り組みを試行・実行できるように、情報収集・提供や制度整備、更なる人的支援などの下支えに努めます。

[主な取り組み]

- ユースホステル運営の効率化や経費削減につながる取り組み提案、制度整理
 - ・ 新たな取り組みの試行・実行に向けた課題抽出と改善策提案、運用整理
- 新型コロナウイルス関連の補助金や助成金等の獲得
 - ・ 雇用調整助成金や持続化給付金をはじめ各種補助金や助成金の獲得
- 人的不足が起きている業務の支援・補完
 - ・ ユースホステル運営や食事提供での人員不足の補完
 - ・ 宇多野ユースホステル業務の一部受任



補正予算概要

新型コロナウイルスによる影響は、当初の予測を遥かに超えて長期化している中で、当協会の基幹事業である宇多野ユースホステル運営と主にその宿泊者を対象とした食堂運営でも深刻な影響を受けており、2020年度は大幅な赤字となることを見込まれます。

そのため、退職者の補充見送りや週2日の休業指示、運営経費や運営スケジュールの見直しなど、経費削減に向けた取り組みを進めつつ、同時に利用者の獲得に向けた割引キャンペーン企画や中庭・バーベキュー場を使ったアウトドア企画なども実施しております。

また、国や地方自治体等の補助金や助成金、キャンペーン事業なども最大限活用し、少しでも負担が軽減するように努めております。京都市からは、2カ月間の休館指示に伴う補償や新型コロナウイルスによる宿泊キャンセルの損失補填（4月～8月分の運営補償金として約2,939万円）がありました。

しかし、10月以降はこういった補助金や助成金、運営補償金を期待することは難しいため、利用実績が従来並みに回復まで運営体力や雇用を維持するためにも、宇多野ユースホステルの納付金（年額1,020万円）の免除や効率的な施設運営のための臨時休館日の設定などについて、引き続き京都市担当課と交渉していきます。

今回の補正予算では、前述のような取り組みを行うことにより協会全体として72,771,000円の費用削減を計画しておりますが、利用者の著しい減少により収益も103,890,000円減少する見通しのため、経常収益を88,541,000円、経常費用を118,946,000円、当期経常増減額を▲30,405,000円に補正いたします。

[補正予算額]

	現行予算	補正予算	(増減)
経常収益(売上)	192,431,000	88,541,000	▲103,890,000
ユースホステル活動及び関連活動	55,528,000	16,958,000	▲38,570,000
指定管理業務及びYH運営	127,934,000	62,409,000	▲65,525,000
組織運営業務	8,969,000	9,174,000	205,000
経常費用(費用)	191,717,000	118,946,000	▲72,771,000
ユースホステル活動及び関連活動	52,434,000	22,266,000	▲30,168,000
指定管理業務及びYH運営	130,355,000	88,218,000	▲42,137,000
組織運営業務	8,928,000	8,462,000	▲466,000
当期経常増減額(経常利益)	714,000	▲30,405,000	▲31,119,000
経常外増減額(経常外利益)	0	0	0
当期正味財産増減額(純利益)	714,000	▲30,405,000	▲31,119,000
次期正味財産期末残高	99,842,165	68,723,165	▲31,119,000

(内、公益目的事業)

	現行予算	補正予算	(増減)
公益目的財産額(期首)	39,392,752	39,392,752	-----
公益目的収支額	▲4,942,000	▲27,130,000	▲22,188,000
公益目的財産額(期末)	34,450,752	12,262,752	▲22,188,000

※ 詳細は、別紙「2020年度補正予算(案)」をご参照下さい。

[協会名]	一般財団法人 京都ユースホステル協会
[代表者の役職氏名]	会長 堀場 厚
[財団設立]	1968年2月12日 ※ 2011年8月1日（一般財団法人へ登記移行）
[協会所在地]	京都市右京区太秦中山町 29 宇多野ユースホステル内
[電話番号]	075-462-2312（代表）